

暮らしを支える活動を支える場所

大学・国際文化学部・3年

期間：令和7年8月28日～30日（3日間）

私は今回、市民活動支援センターで3日間のインターンシップを行った。そもそもこの事業所を選んだのは、私自身が市民活動支援センターで支援している活動についてあまり知らなかったので詳しく学んでみたいと考えたこと、また実際にNPO団体の支援活動を体験することで、自分の視野を広げ、今後の学びや進路選択のヒントを得たい、と考えたことからである。

実際に事業所へ伺い、インターンシップ中に行った主な事柄は、自己紹介・広報誌の発送作業の支援・貧困家庭の子どもたちの学習支援を行うプロジェクトの支援などであった。

初日は事業所の職員の方々との交流を行い、事業所で支援している活動について学んだり、事業所で発行している新聞(広報誌)について学んだほか、NPO団体について詳しいことを学んだりなど、様々なことを行った。

二日目は、発行している新聞を小学校や中学校など、地域に発送する作業をボランティアの方々と行った。この際、インターンシップに参加している学生の間で連携しながら作業に取り組むことが出来た。また、効率の良い作業方法についてボランティアの方から学び、作業に活かすことが出来た。

最終日の三日目には、実際に支援しているNPO団体の活動の支援を行った。この活動では、どのような形で支援を行っているのかを実際に体験したり、支援することの難しさを体感したりと様々な経験を積むことが出来たと考えている。また、新聞などの紙面を作成する際に必要になってくるスキルややり取り、技法などを学んだり、子どもたちとの接し方、どのような面に配慮が必要であるかなどを学んだり、幅広い事柄について知識を得ることが出来たと感じている。

インターンシップ体験前、私はNPO団体や市民活動支援にふんわりとした知識しかなく、どんなことを行っているのかを具体的に把握することが出来ていなかったが、今回インターンシップを体験したことによって、NPO団体には様々な種類があり、子どもたちの学習支援、スマホ操作の支援、保護猫の預かりボランティアなど、私たちの生活を支えるものから、被災地の写真洗浄支援、フードバンク支援など、特殊なものまで幅広く存在していることを学ぶことが出来た。また、支援の形には、資金援助や活動を手伝う、という方法だけでなく、スペースの貸出や情報の共有・ボランティア募集の掲示など様々な形があり、やり方は一つだけではない、ということも学ぶことが出来た。

今回のインターンシップでは、様々な事柄について学び、実際に体験することでたくさんの経験を得ることが出来た。この学びを活かして、今後は以前よりもさらに地域で行われている活動に目を向けてみたり、実際に参加して、積極的に支援の一助を担ったりすることができるように頑張りたい。

魅力の深化と再発見

大学・経済学部・2年

期間：令和7年8月19日～21日（3日間）

私が今回のインターンを通して、一番強く感じたことは、観光の多彩性である。観光がもつ意義は非常に裾が広く、世の中に幅広い効果がある。観光への理解が一層深まり、実際観光事業を行っている団体がどのような活動を行っているのかを学ぶことができた。さらに、それにより観光に対して感じていた魅力がより深いものになり、観光を創造し、発展させていくことにさらなる興味が湧いた。

まず、観光連盟では、連盟の方だけでなく旅行会社の方や県庁の方も一緒になってひとつの団体として活動を行うことを初めて知ることができ、いろいろな職業の人と関わりながら仕事ができるというのは、非常に魅力的だと感じた。また、観光領域のマーケティングでは、地域のいろいろな人との相談が必要であり、団体内のコミュニケーションだけではなく、さまざまな人とのコミュニケーションを通して成り立つものであると理解することができた。これらのことから、観光におけるコミュニケーションに対する考え方が変わった。今まで私が考える観光におけるコミュニケーションと言えば、「観光サービスの提供者と観光客」のコミュニケーション、いわゆるホスピタリティの側面だけだった。しかし、それだけではなかった。「観光サービスの提供者と提供者」のコミュニケーション、「観光サービスの提供者と地域住民」のコミュニケーションをも観光領域は生み出しているのである。それだけでなく、観光が発展することで、経済活性はもちろん、地域活性化によって雇用創出につながり、人口減少にも効果があるのだと気づくことができた。私はもともと人と密接に関わる仕事やホスピタリティ、旅の特別感に興味をもち、観光分野に関心があったが、新たに観光がもつ魅力を自分の中で見つけることができ、観光は自分が思っていたよりも世の中に影響力のある領域なのだと感じた。

さらに、座学や現地調査、ツアープラン考案などのさまざまな活動により、山口の観光に向き合うことで、山口の観光に対して理解を深めることができ、山口の魅力を再発見することができた。今までは、山口の観光に対するイメージは落ち着いていて、歴史に関する観光地ばかりだと思っていた。しかしながら、そうではなく、グルメ、体験、文化、歴史などどんな分野でも、山口には魅力的な観光スポットが存在しており、どのような年代、どのような目的の人でも楽しめる観光地であるのだと思った。そのため、今は山口に住んでいることもあり、旅行や観光地を考える際に、山口県内で探すことはなかったが、山口県内でさまざまな観光地を巡ってみたいと感じたことに加え、家族や友達など多くの人に山口県の魅力、観光の楽しさを知ってほしいと思った。

また、観光における企画のコツやSNSが発達した現代における情報発信の重要性と方法など大学では学ぶことのできない実践的な知識や取り組みを学ぶことができ、非常に充実した3日間を過ごすことができた。今回学んだことを大学の活動（特に観光に関する政策提案の考案などの課題、活動）や将来の職業選択を考える際に活かしていきたい。さらに、将来、さまざまな人と関わり合える観光業界において、どんな形であれ観光の魅力を多くの人に届けられるような人になりたいと思った。

事前準備の大切さ

大学・人文学部・3年

期間：令和7年9月7日～13日（5日間）

今回のインターンシップでは、地域交流センターで5日間の実習を行った。地域交流センターは美術展、コンサート、講演会、セミナー、ワークショップなど、多様な芸術文化活動が開催されている文化活動の拠点である。実際、私が実習を行った5日間にも音楽イベントや展示イベントが多く開催されていた。また、音楽ホールを中心に、多くの文化イベントを支える施設が整っていることや、駅から数分というアクセスのしやすさなどから広く親しまれている。

今回のインターンシップを通して、イベントを企画・運営するうえでの舞台裏に触れることができた。具体的には施設貸し出し業務、施設維持管理業務、自主事業バックステージツアー準備等の体験、広報紙発送準備などの様々な業務を体験・見学した。企画・運営と一言で言っても、私が想定していたよりも、事前準備などですべきことが多くあったため、体験した業務の一つ一つに新たな学びがあった。

特に印象に残っている業務体験が三点ある。まず一点目は、音楽ホールでの催事の準備・本番の見学である。見学では最初に催事の開催前にロビーの記録写真を撮った。これは今回催事を行った際の机や張り紙、お花などを設置した場所を記録写真に残しておくことで、次回以降、同様の催事が行われる際にスムーズに準備をすることができるようになるのだ。少しのことではあるけれど、このように、準備段階から次回以降のことまで見通して行動する習慣を身につけ、普段の生活にも活かしていきたいと感じた。

二点目は、打合わせシミュレーションである。貸館業務の際に実際に使用する打合わせの書類を参照しながらのシミュレーションだ。利用者に事前に提出してもらった申請書をもとに詳細を詰めていくのだが、利用者側の予定の変更などによって申請書との食い違いも出てくる。変更のない部分も含めて、そういった部分を細かく確認し、しっかりと記録に残しておく。また、利用者の希望に添えないこともままあるのだが、その際に代替案を提案したり、申請されていないけれど追加で必要そうなサービスを案内したりするために、打合せ前に事前準備をしっかりと行われている。こういった綿密な準備が当日の円滑な運営に繋がるのだ。

三点目は、ラジオ出演である。地域交流センターは、イベントの宣伝をするために昼のラジオ番組に出演している。私も出演し、あるイベントの宣伝を行った。日時や会場などの基本情報に加えて、イベントに関するちょっとした情報も盛り込んだ原稿を作成したのだが、ちょっとした情報を調べるのが難しかった。調べ方の助言をいただき、私にはなかった視点からの調べ方に目から鱗が落ちる思いであった。

以上のように、地域交流センターでのインターンシップを通して、先を見通して行動することや事前準備の大切さ、新たな視点を学んだ。今回学んだことを、これからの大学生活において活かしていきたい。

多角的な視点の重要性

大学・経済学部・3年

期間：令和7年8月19日～8月21日（3日間）

私は小学生の頃からS市に在住しており、祭り等を通じて商工会議所の存在は以前から知っていた。しかし、具体的にどのような業務を行っているのかは把握していなかったため、業務内容に興味を持ち、また、将来は地域に貢献できる企業への就職を目指している事もあるので、商工会議所で3日間のインターンシップに参加した。

1日目の午前中は、会員に送付する書類の封入作業を行った。3人で役割分担をして取り組んだ事で、作業は円滑に進行した。この業務を通して、チームワークや分業の重要性を実感した。また、この作業は通常業務の合間に行われるので、その大変さと同時に、業務としての必要性も感じる事ができた。午後は、商工会議所の業務内容についての説明を受けた後、タウンマネジメント会議に出席した。インターンシップに参加する前は、商工会議所は中小企業の相談対応や融資の紹介だけを行う機関というイメージを持っていた。しかし実際には、経営相談や融資・斡旋に加え、人材育成を目的としたセミナーの開催や、企業と学生の交流を促進するイベントの運営など、幅広い業務に携わっている事を学べた。また、様々な側面から地域を支えている姿に触れ、驚きとともに深い感銘も受けた。会議では、主に道路整備工事に関する議題が取り上げられた。傍聴のみであったが、一つの議題に対して多方面から意見が交わされる様子を目の当たりにし、多角的な視点の重要性を実感した。

2日目の午前中は、街と駅との連携会議に出席した。会議では「まちづくり」が主な議題として取り上げられた。特に印象に残ったのは、県外の大学の学生によるプレゼンテーションであった。これまでの私は、「まちづくり」は自分が住んでいる場所だからこそ考えるものだと思っていたが、地元ではない立場からの意見や価値観に触れた事で、外部の視点だからこそ見える課題や魅力がある事に気づかされ、新たな視点を獲得する事ができ、非常に学びの多い会議であった。午後は、中小企業相談所の業務説明を受けた。融資などの金銭的な支援のみを行っているという印象を持っていたが、実際には、中小企業が抱える課題に応じて税理士などの専門家と相談できる「経営相談会」を主催し、商工会議所の専門外の問題に対してもニーズに合う支援を行っている事を学んだ。また、イベントの開催により、起業に関する知識やノウハウを提供し、創業支援にも積極的に取り組んでいる点にも大きな関心を抱き、起業に対しても興味を持った。

3日目は、主に報告書の作成を行った。商工会議所の所報に掲載されるので、原稿の執筆だけでなく、掲載する写真のレイアウトも検討する必要があるが、3人で意見を出し合いながら内容と構成を決定し、無事に作業を終える事ができた。

このインターンシップを通じて、特に学んだ事は多角的な視点の重要性である。例えば、会議では、一つの議題に対して異なる立場からの意見が出され、それぞれの視点が問題解決に大きく貢献している事を実感し、また、中小企業が抱える課題に対しても、様々な角度から提案や支援が行われており、業務の多様性にも印象を受け、今回の経験を通じて、多角的な視点を持つ事の大切さを改めて認識した。今後は、より多くの視点から物事を捉える力を養うため、ボランティア活動など人との交流を大切にし、知識だけでなく実践的な経験も積んでいきたい。

やさしい対応の大切さを学んで

大学・人間科学部・3年

期間：令和7年8月13日～25日（5日間）

私はこの5日間、インターンシップを通して、たくさんの経験をさせていただきました。業務内容としては、開館準備や貸し出ししているお部屋の準備、展覧会の物販、入場案内、ワークショップでの説明や参加者への対応、イベントの片づけ作業など幅広い業務に関わらせていただきました。その中で一番印象に残っているのは、来館者の方々にわかりやすく、かつ丁寧に説明を行うことの難しさと大切さです。

このインターンシップへ参加するにあたり、参加前の目標として、「たくさんの人とコミュニケーションをとる」ということを掲げました。最初は緊張して、自分の説明が伝わっているのか不安になる場面も多々ありました。しかし、実際に説明をすると相手が笑顔で反応してくださったり、質問もして下さったことから、自信にもつながり、徐々に積極的に声をかけることができるようになりました。

また、3歳から小学6年生までを対象としたワークショップにも参加させていただきました。ワークショップが始まる前にその日行われる内容の工作を体験し、それについて実際に生徒の子供たちに説明をする担当を経験しました。ただ作品について説明するのではなく、どのようにしたら参加した子供たちの興味が湧き、ワークショップを楽しんでもらえるかを考え、作品についての説明を小話などを交えながら行いました。そうすることによって、生徒の子供たちが、元気よく返事をしてくれたり、楽しそうに笑ってくれたりする姿を見て、準備の大切さと、相手に寄り添う工夫の重要性を感じました。

活動の合間に職員の方に、仕事で心がけていることなど質問させていただく機会がありました。その時に帰ってきた言葉が特に心に残っています。それは、「自分がされて優しいと思う対応を、相手やお客様にするように心がけている」というものでした。私は、その言葉を聞いたときとてもシンプルな言葉でありながらとても深い言葉だと感じました。実際に、職員の方々の立ち振る舞いを見ていると、その言葉通りでとても感動しました。来館された方一人一人に丁寧な声掛けをし、困っている方には寄り添って会話されている姿を見て、とても多くのことを学ぶことができました。

体験前の私は、インターンシップは仕事の内容を知ることが一番の目的だと考えていました。しかし、実際に参加してみると、それだけではなくたくさんのことが学べるものだ気づかされました。今回のインターンシップでは、「相手を思いやる心」や「相手の立場に立って行動することの大切さ」を学ぶことができました。今後、社会に出てどのような業種の仕事に就いたとしても、今回の実習で経験させていただいたものは必ず役に立つと思えました。この5日間で学んだ「やさしい対応の大切さ」を胸に、今後も挑戦し続け、社会に貢献できるような人材を目指していきたいと思えます。